

中国語

加藤 晴子

中国語における「名詞述語文」について、アンケート¹に従い、見ていくことにする。主に、中国語の「コピュラ」「是」の現れ方を見る²。

1. 焦点に関する例文

“是”は後ろの要素を焦点化する働きを持つ。

- [1] (例えば、昨日の集まりに珍しくやって来た人についての会話で)

「えっ、小張が来たの?」「いや、小張じゃなくて小李が来たんだ。」

【対比焦点(主語)】

“咦，是 小张 来了 吗?” “不，不 是 小张 来了，
えっ [繫辞] 小張 来る [実現] [疑問] [否定] [否定] [繫辞] 小張 来る [実現]
是 小李 来 了。”
[繫辞] 小李 来る [実現]

応答文の「小張じゃなくて」に対応する箇所の動詞を省略することはできない。

質問文、応答文ともに、“是”を使わずに、次のように言うことも可能。

“咦，小张 来了 吗?” “不，小张 没 来，小李 来了。”
えっ 小張 来る [実現] [疑問] [否定] 小張 [未実現] 来る 小李 来る [実現]
「えっ、小張が来たの?」「いや、小張は来なかった、小李が来た。」

- [2] 「誰が来たの?」「小張が来たよ。」【WH焦点(主語)・WH応答焦点(主語)】

“谁 来 了?” “小张 来 了。”
だれ 来る [実現] 小張 来る [実現]

質問文、応答文ともに、“是”を使い、次のように言うことも可能。

¹ アンケートへの回答は、本学非常勤講師の飯島啓子さんと、蘇紅さんをお願いした。ここに感謝の意を表す。ただし、本稿の内容に誤りがあれば、それは筆者の責任に帰するものである。

² 回答で得られた中国語の文がもとの例文と表現上で大きく異なる場合、中国語文に対する直訳も付した。

“是 谁 来 了？” “是 小 张 来 了。”

[繫辞] だれ 来る [実現] [繫辞] 小張 来る [実現]

[3] (小張と小李の背について話している状況で)

「小張の方が大きいんじゃないの？」

「いや、小張じゃなくて、小李の方が大きいんだよ。」

【YesNo 疑問・形容詞述語応答焦点】

“不 是 小 张 高 吗？”

[否定] [繫辞] 小張 高い [疑問]

“不 是 小 张 (高)， 是 小 李 高。”

[否定] [繫辞] 小張 高い [繫辞] 小李 高い

この場合、応答文冒頭に“不，”などをつけるのは不自然。

[4] (電話で)

「どうしたの？」 「うん、お客さんが来たんだ。」 【文焦点 (自動詞文)】

“怎么 了？” “没什么， 家里³ 来 了 位 客人。”

どのよう [実現] 何でもない 家に 来る [実現] [助数] 客

応答文は“是”を使い、次のように言うことも可能であるが、説明的な感じ、場合によっては、追及に対する弁解であるような感じがするという。

“怎么 了？” “没什么， 是 家里 来 了 位 客人。”

どのよう [実現] 何でもない [繫辞] 家に 来る [実現] [助数] 客

[5] 「あの子供が小張を叩いたんだって!？」

「いや、小張じゃなくて、小李を叩いたんだよ。」 【対比焦点 (目的語)】

“那个 孩子 打 了 小 张？”

あの 子供 叩く [実現] 小張

“不 是， 没 打 小 张， 打 了 小 李。”

[否定] [繫辞] [未実現] 叩く 小張 叩く [実現] 小李

質問文に疑問を表す“吗？”を使うことは不可とされた。また、応答文は、「小張じゃなくて」に対応する箇所動詞を省略することはできない。ただし、次のように、“是”を

³ もとの例文にはないが、ここに必要な要素として加えられた。

使い、分裂文で言うほうがより自然である。

“那个 孩子 打 了 小张？”

あの 子供 叩く [実現] 小張

“不， 他 打 的 不 是 小张， 是 小李。”

[否定] 彼 叩く [の] [否定] [繫辞] 小張 [繫辞] 小李

「いや、彼が叩いたのは小張じゃなくて、小李だよ。」

この場合、応答文冒頭の“不，”＝相手の認識内容の否定は，“没有，”＝出来事の実現の否定として応答することも可能である。

[6] 「赤い袋と青い袋があるけど、どっちを買うの？」

「(私は) 青い袋を買うよ。」

【対比焦点(目的語、特に「どっち」という対比的な疑問語の場合)】

“有 红 袋儿 和 蓝 袋儿， 你 买 哪个？”

ある 赤い 袋 と 青い 袋 あなた 買う どれ

“我 买 蓝 袋儿。”

私 買う 青い 袋

質問文、応答文ともに、“是”を使い、分裂文で言うことも可能であるが、未実現であることを示すには、次のように、[願望]や[意志]を表す助動詞“要”を加える必要がある。

“有 红 袋儿 和 蓝 袋儿， 你 要 买 的 是 哪个？”

ある 赤い 袋 と 青い 袋 あなた [意志] 買う [の] [繫辞] どれ

“我 要 买 的 是 蓝 袋儿。”

私 [意志] 買う [の] [繫辞] 青い 袋

「赤い袋と青い袋があるけど、あなたが買うのはどっち？」

「私が買うのは青い袋だよ。」

[7] (例えば、朝少し遅く起きて来た小張の父親が、姿の見えない小紅について母親に尋ねている場面で)

「小紅はどうした？」「小紅は朝からどっかへでかけたよ。」【述語焦点】

“小紅 呢？” “小紅 一大早 就 出去 了。”

小紅 [確認] 小紅 朝早く [もう] でかける [実現]

質問文を“小紅怎么了？”とすると、小紅の様子(具合が悪そう、慌てている、など)を実際に見て質問していることになる。

[8] 「(あの子供は) 誰を叩いたの?」「(あの子供は) 自分の弟を叩いたんだ。」

【WH 焦点 (目的語)・WH 応答焦点 (目的語)】

“那个 孩子 打 了 谁?” “他 打 了 他 弟弟。”

あの 子供 叩く [実現] だれ 彼 叩く [実現] 彼の(の) 弟

質問文, 応答文ともに, “是” を使い, 分裂文で言うことも可能であるが, 説明的な感じがするという。

“那个 孩子 打 的 是 谁?” “那个 孩子 打 的 是 他 弟弟。”

あの 子供 叩く [の] [繫辞] だれ あの 子供 叩く [の] [繫辞] 彼の(の) 弟

[9] (例えば, 電話の向こうで子供の泣き声がかきたのを聞いての発話)

「どうしたの?」「うん, 小張が自分の弟を叩いたんだ。」【文焦点 (他動詞文)】

“怎么 了?” “没什么, 是 小张 打 了 他 弟弟。”

どのよう [実現] 何でもない [繫辞] 小張 叩く [実現] 彼の(の) 弟

質問文は“是”を使わずに, 次のように文末に[回想]を表す“来着”を使うことも可能。

“怎么 了?” “小张 打 他 弟弟 来着。”

どのよう [実現] 小張 叩く 彼の(の) 弟 [回想]

[10] 「あのケーキ, どうした?」「ああ, あれは小張が食べちゃったよ。」

【目的語主題化, 主題 (目的語) の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】

“那个 蛋糕 呢?” “啊, 那个 蛋糕 小张 吃 了。”

あの ケーキ [確認] ああ あの ケーキ 小張 食べる [実現]

質問文を“那个蛋糕怎么了? とすると, 実際にはないことを確認したうえで, それが大きな問題になると考えて質問していることになる。また, 応答文の“那个蛋糕”は省略しにくくようである。

[11] 「私が昨日お店から買って来たのはこの本だ。」【分裂文】

我 昨天 从 商店 买 回来 的 书 是 这 本。

私 昨日 から 店 買う 帰る [の] 本 [繫辞] この [助数]

2. 各種のコピュラ文

[12] 「あの人は先生だ. この学校でもう3年働いている.’」

【措定文 主題 (名詞述語文の主語) の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】

那个人 是 老师, 他 在 这个 学校 已经 工作 了 3 年 了⁴。

あの 人 [繫辞] 先生 彼 で この 学校 すでに 働く [実現] 3年 [実現]

後続文の人称代名詞“他”は省略しにくいようである。

[13] 「彼のお父さんは, あの人だ.’」【倒置指定文】

他 父亲 是 那个人。

彼(の) 父親 [繫辞] あの 人

[14] 「あの人が彼のお父さんだ.’」【指定文】

那个人 是 他 父亲。

あの 人 [繫辞] 彼(の) 父親

[13]と[14]とは, 単に“是”の前後を入れ替えるのみであるが, 発音する際は, いずれも“那个人”のほうを強めに発音する。[14]は“他父亲”のほうを強めに発音すると, 「あの人は彼のお父さんだ.’」に相当する言い方となる。

[15] 「あさってってというのはね, あしたの次の日のことだよ.’」【定義文】

后天 就 是 明天 的 明天。

あさって [まさに] [繫辞] あした [の] あした

次のように言うことも可能。

后天 呀, 是 说 明天 的 明天。

あさって [説明] [繫辞] いう あした [の] あした

あさってはね, あしたのあしたをいうんだよ。

⁴ 中国語文法では, “了”について, 動詞に直接後接し[動作の完了]を表すものと, 文末について[事態の変化]を表すものとを, それぞれ“了1”“了2”として区別するが, 本稿では, 一律に[実現]を表すものとして扱う。

[16] (何人かが入った喫茶店で注文を聞かれて)

「私はコーヒーだ。」【ウナギ文】

“我 来 杯 咖啡。”

私 注文する [助数] コーヒー

「私はコーヒーだ。」の直訳“我是咖啡。”は不可。

[17] (注文した数人分の飲み物が運ばれて来て)

「どなたがコーヒーですか?」「コーヒーは私だ。」【逆行ウナギ文】

“哪 位 (要) 的 咖啡?” “我 (要) 的 咖啡。”

どれ [助数] (頼む) [の] コーヒー 私 (頼む) [の] コーヒー

「どなたがコーヒーを頼んだのですか。」「私がコーヒーを頼んだのです。」

質問文、応答文ともに、“是”を使い、次のように言うことも可能であるが、説明的な感じがするという。

“是 哪 位 (要) 的 咖啡?” “是 我 (要) 的 咖啡。”

[繫辞] どれ [助数] (頼む) [の] コーヒー [繫辞] 私 (頼む) [の] コーヒー

2種の訳のいずれも、「誰の(誰が頼んだ)コーヒーか。」「私の(私が頼んだ)コーヒーだ。」に相当する表現であるとも考えられる。つまり、“(是) 我要的咖啡”について見ると、以下の2つの可能性がありうる⁵。

私がコーヒーを頼んだのだ 私頼んだコーヒーだ

両者はイントネーションなどにおいても違いはなく、曖昧さを有する。

さらに、文頭に“这[これ]”を置き、“这是哪位(要)的咖啡?[これは誰の(誰が頼んだ)コーヒーか]”“这是我(要)的咖啡。[これは私の(私が頼んだ)コーヒーだ]”とすることもできるが、使う場面としては、多数の飲み物が並んでいる中で、何らかの理由により、わざわざ1つを取り上げて尋ねるようなことが想定されるという。

⁵ “是”は口語ではしばしば省略され、省略された“我要的咖啡”ならばさらに「私はコーヒーを頼んだのだ(省略前の“是”の置き場所は“我”の後)」「私が頼んだのはコーヒーだ(省略前の“是”の置き場所は“的”の後)」も表しうる(朱 1961)。

[18] 「その新しくて厚い本は（値段が）高い。」【形容詞述語文 修飾・並列・述語】

那 本 又 新 又 厚 的 书 （价钱）很 贵。
 その [助数] [重複] 新しい [重複] 厚い [の] 本 （値段） [程度] 高い

「新しい」と「厚い」の「本」に対する関わり方を変え、次のように言うことも可能。

那 本 厚 厚 的 新 书 （价钱）很 贵。
 その [助数] 分厚い 新刊書 （値段） [程度] 高い

「その分厚い新刊書は（値段が）高い。」

“厚厚的”は「分厚い」に相当して「本」の様態を描写し⁶，“新书”は「新刊本」に相当して，“新”は「本」の属性を示す。この場合、必ず、様態、属性の順に並べられる。

また、2種の訳いずれにも現れているように、中国語の形容詞述語文においては“很”などの[程度]を表す副詞が必須とされ、それがないと対比や分類の意味を持つとされるが、風間 2012 はこれを「コンピュータというべきものに近づいている」としている。[程度]を表す副詞の前に“是”を置き，“（价钱）是很贵（的）”とすることもできるが、この時“是”は強く発音され、「確かに～だ」というニュアンスを表す。

3. 意外性に関する例文

[19] （砂糖の入れ物を開けて）

「あっ、砂糖が無くなっているよ！」【意外性（mirativity）】
 “啊，白糖 没 了！”
 あっ 砂糖 ない [実現]

「砂糖がなくなった」という事実を淡々と伝える文との違いは、感嘆詞の“啊”と、高低差を拡大したイントネーションのみである。

[20] 「午後、誰かに会うはずだったなあ。誰だったっけ。あっ、そうだ！ 小張だったな。」

【思い出し】

“我 下午 好像 约 了 人 见面。 是 谁 来着？”
 私 午後 のようだ 約束する [実現] 人 会う [繫辭] だれ [回想]
 想起来 了， 是 小张 啊！”
 想起する [実現] [繫辭] 小張 [説明]

⁶ “厚厚的”の“的”は、形容詞の語尾とされ、名詞相当句を構成する[の]とは異なる。

参考文献

- 風間伸次郎.2012.「コピュラ文の諸相」, 影山太郎・沈力(編)『日中理論言語学の新展望 2 意味と構文』, 東京:くろしお出版, pp.85-106.
- 吕叔湘主编.1999.《现代汉语八百词(增订本)》, 北京:商务印书馆, pp.496-503
- 朱德熙.1961.〈说“的”〉,《中国语文》1961-12(朱德熙.1985.《现代汉语语法研究》, 北京:商务印书馆, pp.67-103 再録) .